



内牧温泉のランドマークになりたい。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

市営施設「はな阿蘇美」の運営に携わることになった

中山謙吾さんは、その薔薇の畑に立ったとき、

ふしぎな心の動きを経験します。

たとえば、静かで厚みのある旋律に包みこまれるような。

「キザな言い方になりますが、

ああ、訪れる人を心の底から歓喜させる、

そういう施設を作り上げること

自分を投じたい……」痛切に思った。

波瀾の多い時を過ごしてきたなかで得たのはきわめてシンプルなこと、

「自分の心の動きに忠実がいちばん」。

施設内のレストランを「農村バイキング」と呼び、

阿蘇の四季の野菜をふんだんに提供しています。

薔薇の畑は華麗な園に仕立て上げられ、樹木も加えて森に近づいた。

遠くない日、内牧温泉のランドマークとなることをめざしたい。

そうしたかたちで地域への貢献ができれば、ほんとうにうれしい。

はな阿蘇美 中山謙吾

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。